

# JIS

UDC 616.31 : 615.472

T 5215

## 歯科用根管口拡大G形ドリル

JIS T 5215-1995

平成7年8月31日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## 医療安全用具部会 歯科器械専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	高橋重雄	松本歯科大学
	小野瀬英雄	日本大学
	川和忠治	昭和大学
	長谷川二郎	愛知学院大学
	吉田隆一	日本歯科大学
	小倉英夫	日本歯科大学新潟短期大学
	古市正敏	工業技術院標準部
	松谷有希雄	厚生省薬務局
	梅田昭夫	日本歯科医師会
	太田喜一郎	日本歯科医師会
	杉山勉	日本歯科医師会
	鶴木隆	日本歯科医師会
	中島博和	日本歯科医師会
	渡邊昭	日本歯科医師会
	石谷薫	株式会社ワイデム・ヤマウラ
	菅谷昭正	株式会社吉田製作所
	中村信一	中村デンタル株式会社
	堀部俊郎	ビヤス合資会社
	伊藤与士郎	株式会社デンテック
	山口善男	長田電機工業株式会社
(事務局)	津金秀幸	工業技術院標準部電気規格課
	青山直充	工業技術院標準部電気規格課

主務大臣：厚生大臣 制定：平成7.8.31

官報公示：平成7.9.14

原案作成協力者：日本歯科器械工業協同組合

審議部会：日本工業標準調査会 医療安全用具部会（部会長 山中 學）

審議専門委員会：歯科器械専門委員会（委員長 高橋 重雄）

この規格についての意見又は質問は、厚生省薬務局医療機器開発課（☎100-45 東京都千代田区霞が関1丁目2-2）又は工業技術院標準部電気規格課（☎100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 歯科用根管口拡大G形ドリル

T 5215-1995

## Dental root canal enlargers—Type G

1. 適用範囲 この規格は、歯の根管口拡大形成に使用する歯科用根管口拡大G形ドリル(以下、G形ドリルという。)について規定する。

備考 この規格の引用規格及び対応国際規格を、次に示す。

引用規格 JIS G 4303 ステンレス鋼棒

JIS G 4309 ステンレス鋼線

JIS T 5201 歯科用バー

JIS T 5207 歯科用根管リーマ(エンジン用)

JIS T 5208 歯科用ピーソーリーマ

JIS T 5210 歯科用カーボランダムポイント

対応国際規格 ISO 3630/2 : 1986 Dental root-canal instruments—Part2 : Enlargers

2. 種類、寸法及び形状 G形ドリルの種類、外径寸法、色別及び記号は、表1のとおりとする。

また、刃の数は3枚以上とし、軸部は、軸部形式1(CA用)又は軸部形式2(HP用)とする。軸部の寸法は、表2、JIS T 5201、JIS T 5207、JIS T 5208及びJIS T 5210に規定する寸法による。

なお、形状及び寸法の一例を、図1に示す。

表1 種類、外径寸法、色別及び記号

種類	外径寸法 mm						色別	記号
	$d_1$ ±0.05	$l_1$ 最小	$d_2$ 最大	$d_3$ 最大	$d_4$ 最大	$l_5$		
050	0.5	2.5	0.38	0.36	0.30	1.50	白	I
070	0.7	2.9	0.48	0.45	0.30	1.70	黄	II
090	0.9	3.3	0.58	0.55	0.35	1.90	赤	III
110	1.1	3.7	0.68	0.65	0.35	2.10	青	III I
130	1.3	4.1	0.78	0.74	0.44	2.30	緑	III II
150	1.5	4.5	0.87	0.83	0.44	2.50	黒	III III

備考1.  $d_1$ は、作業部最大直径を示す。

2.  $d_2$ は、作業部末端の直径を示す。

3.  $d_3$ は、けい部末端の直径を示す。

4.  $d_4$ は、先端から0.5 mmの位置の直径を示す。

5.  $l_1$ は、先端から作業部末端までの長さを示す。

6.  $l_5$ は、先端から作業部最大直径位置までの長さを示す。

7. 色別は、軸部のリング色を示す。

8. 記号は、軸部のリング記号を示す。